いよ〳〵あやしみ
琉人開く 伊達家の騒動
かく是ぞと思ひだし 汝ちう
渕よお遠足ぐべ忠義おんド
曲者めんと 改て御浪人と
なりて 君が為をお洞らの ごとゝ
家老より 白状 光生にて あらた
めて 忠義と いかなる 御名
まで返す 忠の 沈観 が 又 に 問
是ぞ 是 神浪 に 名残 しる 仕合 じゃ▲

▲やがて義義を
ふし「忠義の書」は
この場で切腹 さてひとつの
お取 ひは武士 へおきよ ひ
と男 と 又 受て 紛 はふさき 呑 へ
お取 ひ や 古 へ 夜 の こと 勤 て 死 しる
其後 で との 運 判状 を 開 え 宵 ・ 侍
余氏 の 邸 まで 御 卑 屋 〔つゞく〕

朝比奈謙三
光国卿

三左エ門

三左エ門

片倉小十郎

伊達安藝

つゞき
熊男甚五郎

つゞき

つづき
坂倉内膳正
原田甲斐

酒井雅楽頭
伊達安芸

つづき

伊達家の吟味と聞き申死人の胃

甲斐文

△安藝宗室をとそつと

安藝

三左エ門

雅楽頭
甲斐
安藝

内膳正

つづき
原田甲斐
◐逃り込を安藤が給仕

伊達安藝

新板二冊袋入
濱切物　六十番　一

はつ雪　太陸撰　二十番

一　合羽二冊五冊
袋入濱切物　十二番　一

白雄素物　二十番

一　中幸用文字引
等法其他　品々　一

色の小布
墨の小布　品々

一　切貼上下代記
実録物ろか　百番　一

品々

書物錦繪
地本問屋

御屆明治十四年乙巳月三日

編輯人兼
出版人　辻岡文助

日本橋區横山町三丁目二番地

定價五錢